

第67回 卒業証書授与式



陽光まばゆい三月三日、第六七回卒業証書授与式が挙行された。多くのご来賓・保護者の方々にご参列いただき、厳かな雰囲気の中、卒業証書授与は卒業生一人一人の氏名が各担任から読み上げられ、クラス代表の生徒に卒業証書が授与された。

山田校長先生は、「学び続ける心」「責任感・思いやり」「志」の三つを忘れず常に心掛ければ、前例が通用しない変化の激しい時代



にもしっかりと対応出来る。それぞれの道で活躍してほしい。」と述べられた。

続いて岡理事長は、「情報化・機械化の技術が進み便利な世の中となったが、同時に格差の大きい社会情勢にもなっている。知識を身に付け物事を判断する能力を持つて頑張つてほしい。」と述べられ最後に「日々の研鑽は報われる。」という言葉が卒業生に託された。

卒業生を代表して「感謝の言葉」を述べた大野田龍二君は、「三年間の高校生活を振り返りながら家族や友人、教職員への感謝の気持ちを丁寧に伝えていた。」

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221

印刷所
有限会社 須賀印刷

http://www.yamura
kokusai.ed.jp

退場の際、卒業生はクラス全員で声を合わせ、それぞれに今までの感謝と別れの挨拶を述べ、温かい拍手に包まれながら会場を後にした。広がる青空に門出を祝われた卒業生は目を輝かせ、胸を張つて山村国際高校から巣立つていった。

●各賞授与

- *山村学園理事長賞 7組：小林千聖
- *学校長賞 6組：山田桃太郎
- *後援会長賞 4組：糸川温
- *国際文化賞 1組：岩淵ナオミ
- *山村要二記念賞 3組：森田拓真
- *山村婦よ記念賞 5組：吉川真由
- *日本私立中等高等学校連合会会長賞 3組：岡野怜奈
- *埼玉県私立中等高等学校協会会長賞 1組：武谷康ノ介
- *埼玉県私立小学校中学校高等学校保護者会連合会会長賞 6組：羽賀可威
- *産業教育振興中央会会長賞 5組：伊藤歩
- *埼玉県産業教育振興会会長賞 5組：山内風花
- *埼玉県体育協会会長賞 7組：神藤舞莉奈
- *30年者皆勤賞 2組：星未来夏
- *山村学園創立者賞 2組：古川弘美様(壮一郎)
- 5組：木村勝則様(緋里)

卒業生へのメッセージ

校長 山田良秋

本校を巣立ち社会に羽ばたく皆さんに、饒(はなむけ)の言葉を送ります。まずは「学び続ける心」を持つて欲しいと言うことです。前例が通用しない変化の激しい時代では、学ぶことにより確かな知識・判断力が身につく、変化する社会への対応が柔軟にできるようになります。そして、自分自身の可能性を広げ、豊かな人生を送るための強力な武器となります。是非とも強い意志を持つて学び続けて下さい。

二番目は、「責任感」と思いやりを持つて欲しいと言うことです。人は一人では生きて行けません。お互いの関わりの中で生きています。穏やかで優しい社会の実現には、責任感と思いやりが不可欠です。最後の三番目です。「志(こころざし)」を高く持つて欲しいと言うことです。その場の生活に満足するのではなく、常に努力を惜しまず、志を高く持つて頑張つて下さい。皆さんの今後には、幸多かれと祈っています。

蝸螂

今年一月に上野で開催された「生頼範義展」は、同時期に開かれていた「北斎とジャポニズム」程ではないが、著名な漫画家やマスコミ関係者、マニアックなファンのリピーターも多く訪れ、盛況であった。

生頼は若い頃に吉川英治の著作の挿絵で名を広め、小松左京・平井和正等の作品の装幀や挿絵で活躍したイラストレーターで、多くの映画のポスターやパンフレットも手がけた。美術界では商業イラストというのとは下に見られるものだが、うである。自らも「画家は肉体労働者である」と述べていた。しかし彼の絵はハリウッドに認められ、スターウォーズの全世界版ポスターも描いている。平成ゴジラシリーズのポスターは誰もが目にしたことがあるだろう。考えると北斎も当初は読本などの挿絵を描き、狩野派が画壇の主流であった江戸時代、庶民には愛されたが権威とはみなされず、その芸術性、真価を認められたのは西洋の画家たちであった。この二人には共通点が多いのではないか。生頼は没後三年、北斎は百六十九年、その作品は、これからも愛され続け、残つていくことであろう。

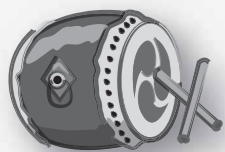
芸術鑑賞会



本年度の芸術鑑賞会は十二月十三日に、坂戸文化会館にて開催いたしました。本年度の内容は和太鼓グループの鼓童を招いて、その鑑賞を行いました。

様々な種類の太鼓や鳴り物の楽器を用いて多くの曲を演奏していただきました。腹の底に伝わる振動や、音の迫力。舞台上に繰り広げられる圧巻の和太鼓アンサンブルを感じる事ができました。また、本校の教員、生徒の代表が舞台上に上がり、実際に和太鼓を叩かせていただきました。太鼓の種類によってリズムを変えて演奏をしました。会場は拍手と笑顔で包まれ、大変盛

り上がりました。その後、二曲ほど演奏をしていただき、芸術鑑賞会は終了しました。生徒は「かっこよかった」、「迫力があつた」等の感想を話していました。また、鼓童の方が、「目標を持ち続けていればいつか必ず達成できる」という言葉も印象的でした。和太鼓という日本の伝統の音楽を肌で感じ、日本の文化の魅力を改めて実感させられるとても良い機会になったのではないのでしょうか。



ブリテイッシュヒルズ



12月26日〜28日の3日間、福島県にあるブリテイッシュヒルズへ英語研修に行きました。この研修では、中世の英国が忠実に再現された施設の中でネイティブの先生から生きた英語を学ぶことができます。今年は21人と例年より多くの生徒が参加し、様々な人たちと楽しみながら交流を深めることができました。

参加した生徒の感想

2年3組 両瀬知花

ブリテイッシュヒルズに行くのは今回で2回目です。前回に比べて雪がたくさん降っていたので道は歩きづらかったですが、景色はとても綺麗でした。



ラウンジでお昼を食べた後、建物の中を見学し、たくさん写真を撮りました。スヌーカーやクッキング、カリグラフィ、ダンスなどのプログラムも昨年より積極的に参加することができました。特にスヌーカーやダンスはチームになったりペアになったりして、知らない子とも話す事が出来たので友達が増えました。食事は、ローストビーフやフィッシュアンドチップス等、普段食べないような料理がたくさん出てきて、色々なものを食べる事が出来たので嬉しかったです。今年は人数が多く、新しい発見があり、にぎやかで楽しかったです。

第38回 校内弁論大会

十一月二十五日（土）、本校体育館で、校内弁論大会が開催された。今年度で四十二回目を迎えたこの大会には、例年通り各学年から選抜され、この日に向けて練習を重ねた十二名の弁士が壇上においてそれぞれの主張を堂々と発表した。

その内容は、身近な生活に密着したものや社会問題を取り上げたもの、自己の体験、様々な事柄から考えたことなど多岐にわたり、出場者たちは全校生徒・全職員の聴衆に臨んで、練習の成果を発揮した。

結果は以下の通り。

国語科奨励賞は二年八組の安彦彩香、北朝鮮の弾道ミサイル問題から、平和の意義を訴えた「安全性について」。三位の後援会長賞には二年三組大野愛莉で、言葉の使い方についての考えを述べた「言葉の力」。二位の夕顔賞は昨年が続いて出場した二年七組、島村夏実、現代の日本の政治への不信感とこれからの自分たちの責任を語った「日本の今後、私たちの未来」がそれぞれ選ばれた。そして一位の若紫賞は、一

年八組の福岡礁「考えよう観光客のマナー」が受賞。観光地での、訪れた客のマナーの悪さや迷惑行為を論じ、自分たちのなすべきことを表した内容であった。

また、この日に先立つ十八日には入西地域交流センターにおいて、坂戸市・少年の主張大会が開かれ、本校から、昨年の弁論大会に出場した二名が出場し二年八組武田莉桃が優良賞を、島村夏実が優良賞を受賞した。



SPEECH CONTEST

The Recitation Contest was a fantastic event this year! The students displayed great skill and hard work that highlighted the importance of culture, the environment, animal rights, and personal dreams. The diverse range of topics, depth of expression, and public speaking techniques were a true credit to both themselves and Yamamura Kokusai School as a whole.

The first place Eternal Flame Speech Prize went to Momomi Miyashita (2-7) for her excellent performance illuminating the value of *omotenashi* in Japanese culture. The second place Crystal Prize went to Manami Mikami (2-7) for her superb presentation techniques raising awareness of the fur trade. Third place went to Fuka Kurihara (1-8) for her astute speech on table manners and the links between cultures.

In the other speeches, Tamami Baba (3-1) and Masatatsu Kou (1-6) both expressed the importance of music and dance in their lives; Yuka Onishi (2-8) advocated the importance of keeping a simple approach to life while Mayu Nangou (2-4) highlighted the tragedy commonly faced by young pets in Japan.

The recitation first place Shining Star Prize went to Miho Akiba (1-5) for her wonderful skills that captured the emotion and meaning of her text. Second place went to Reiju Asanuma (1-5) for demonstrating her understanding of her text and great memorization. The runners up were Anna Manabe (1-1), Miki Watanabe (1-1), Nonoka Baba (1-2), and Itsuki Okabe (1-6).

The contest was an amazing chance for the students to exhibit their talent and skill, and they all did extremely well. The bar has been set very high for next year!



活躍している部活動 **ダンス部**

ダンス部

過日放送された『ミュージックステーション』にダンス部が出演した。部活に青春を捧げる高校生が選ぶ「アガる歌」特集というテーマで、曲はWANIMAの『ともに』。ジャズダンスをベースに、タオルを使ったダンスで、昨年末からコーチによる振付をし、年明けに撮影を行った。当日振付の変更などの要請があり、終了までに約5時間を要した。番組では、WANIMAの皆さんがとても喜んでいて、



後日、オリジナルタオルを感謝の手紙とともにプレゼントして下さった。生徒にはとても励みになった。

3月4日には、テレビ朝日『音楽チャンプ』という番組に出演し、全国大会優勝校の同志社香里高等学校と対戦した。悔しい結果に涙する部員もいたが、審査員から頂いたアドバイスを今後の練習に生かしていきたい。

今年度、たくさんのお出演や大会に参加する機会を頂いたことに心から感謝いたします。これからも応援宜しくお願いいたします。

吹奏楽部

ディズニースーでの演奏を終えて

一月二十四日、本校吹奏楽部は、ドリーマーズオンステージの抽選の結果、ディズニースーという大きな舞台での演奏をさせていただきました。

普段の座ったまま演奏をする座奏ではなく、動きをつけたマーチングのスタイルを取り入れた演奏をしました。通常はC館での練習ですが、ドリーマーズオンステージに向けて、サンクンガーデンや生徒ホールでの練習をしました。縦や横のラインは揃っているか、



動きながら音はしっかり鳴らせているか。という普段は意識しないところまで神経を張り詰めて練習を重ねました。

インフルエンザが心配だったものの、当日は出演予定のメンバーが全員揃い演奏をさせていただきました。本番では緊張の中にも笑顔が溢れ、聴いている方々も楽しませることができました。演奏をした曲目は、ディズニーのお馴染みの名曲が詰まった「ディズニールランド・セレブレーション」、ディズニーの悪役たちの曲が挿入された「ディズニールランドメドレー」、ジャズの定番曲「シングシングシング」の三曲を演奏しました。三曲目の「シングシングシング」では演奏をする側も、聴いている側も大いに盛り上がり、一体感のある演奏をすることができました。

本番終了後は興奮冷めやらぬ様子で、部員全員が「また演奏がしたい」と次のステージへの目標を見せました。部員の悲願でもあったディズニースーでの演奏は吹奏楽部への大きな自信へと繋がりました。本番までに御協力や応援をしていただいた多くの方々への感謝も忘れずに、今後の演奏に役立て、多くの方々へ感動を届けられる演奏をしていきます。



進路報告

～進路指導部より～

二〇一七年度生の進路状況

【大 学】

大学入試センター試験

二〇一八年度(平成三十年年度)の大学入試センター試験の志願者数は、前年より六七〇四人増え、全国で五八二、六七一人(うち受験者数五五四、三二人)であった。国公立大学の志願者の総数は四四五、四二二人で、募集人員二〇〇、五四七に對する志願倍率は四四、三倍であった。本校からは、昨年より十七名少ない七十二名が受験した。

文高理低が続く中での結果

私立大学に対し、文部科学省は二〇一六年から収容定員が八〇〇人以上の大規模校、および、四〇〇人以上以上八〇〇〇人未満の規模校を対象に入学定員超過による私立大学等経常費補助金の交付基準を厳しくしているが、この制限がさらに厳しくなり、難関校だけでなく中堅校でも合格者の絞り込みが前年に続き難化した。

また、昨年に続き文高理低の志願状況で、文系学部が充実している総合大学を中心に志願者が増加している。

(以下は平成三十年二月二十四日時点の入試結果になります)。

【短期大学】

本校で短期大学を希望する生徒は、昨年度より少し減って八八％(昨年は一二七％)であった。中でも多かったのは系列校の山村学園短

期大学(保育学科)で、八名の進学が決まっている。また、全体でも幼教・保育系は人気が高く、全短大進学者のおよそ五十五％を占め、次いで看護系が埼玉医科大学短期大学へ三名進学するなど十四％を占める結果となった。

【専修学校】

専修学校を希望する生徒は、昨年並みの二五、六％であった。学ぶ学科・コースは、医療関連・自動車整備・情報処理・ビジネス系など多岐にわたるが、中でも人気が高かったのは理美容系で十四名、また医療福祉関係には十二名の進学が決定している。

【就 職】

文部科学省発表の「平成三十年三月高等学校卒業予定者の就職内定状況」によると、埼玉県の平成二十九年十月末までの就職内定者は五八五、八名で、就職内定率は七十四、六％(前年度より二、七％増)であった。また、男女別にみても、男子の就職内定者は三二、六名で就職内定率は七十四、二％、女子の就職内定者は二五、九七名で就職内定率は七五、三％と、どちらも高い就職内定率となった。しかしながら、公務員に関しては国家・地方共に依然人気が高く、初級とはいえ厳しい状況である。公務員試験の内容は、教養試験・適性試験・作文面接などだが、教養試験では、政治・数学・国語など幅広い科目に関する一般知識と文章理解力、数的推理力などの一般知能が問われるため、早期に対策をとる必要がある。

本校では、川越市役所一名・警視庁一名・航空自衛隊一名・陸上自衛隊一名の計四名が公務員試験に合格し、また五名が一般企業に内定している。

国公立大学		私立大学	
信州大学	1	亜細亜大学	3
		跡見学園女子大学	6
		奥羽大学	1
		大妻女子大学	1
		神田外語大学	1
		共栄大学	2
		京都医療科学大学	1
		共立女子大学	1
		杏林大学	1
		慶應義塾大学	1
		國學院大学	2
		国士舘大学	2
		駒澤大学	1
		埼玉医科大学	1
		埼玉工業大学	2
		実践女子大学	1
		十文字学園女子大学	4
		淑徳大学	5
		城西大学	13
		城西国際大学	1
		尚美学園大学	1
		女子栄養大学	3
		駿河台大学	2
		聖学院大学	2
		成蹊大学	1
		西武文理大学	1
		大正大学	2
		大東文化大学	28
拓殖大学	2	多摩美術大学	1
津田塾大学	1	帝京大学	1
帝京大学	1	帝京平成大学	1
帝京平成大学	1	東海大学	1
東海大学	1	東京家政大学	1
東京家政大学	1	東京経済大学	2
東京経済大学	2	東京工科大学	1
東京工科大学	1	東京国際大学	7
東京国際大学	7	東京情報大学	1
東京情報大学	1	東京女子体育大学	1
東京女子体育大学	1	東京成徳大学	1
東京成徳大学	1	東京電機大学	4
東京電機大学	4	東京理科大学	1
東京理科大学	1	東都医療大学	1
東都医療大学	1	東洋大学	4
東洋大学	4	獨協大学	2
獨協大学	2	二松学舎大学	1
二松学舎大学	1	日本医療科学大学	7
日本医療科学大学	7	日本映画大学	1
日本映画大学	1	日本女子体育大学	1
日本女子体育大学	1	日本保健医療大学	1
日本保健医療大学	1	日本薬科大学	4
日本薬科大学	4	人間総合科学大学	2
人間総合科学大学	2	文化学園大学	1
文化学園大学	1	文京学院大学	3
文京学院大学	3	法政大学	1
法政大学	1	北海道医療大学	2
北海道医療大学	2	明星大学	2
明星大学	2	ものつくり大学	1
ものつくり大学	1	立正大学	3
立正大学	3		

三年生送別会

二月二十四日、三年生の送別会が行われた。一ヶ月ぶりに登校した三年生は、いつも以上に楽しそうな姿が見られ、会場内は、まるで春の陽気のような雰囲気だった。

送別会は表彰、生徒会長の言葉から始まった。ポップで楽しい雰囲気なバントントワーリング部。力強く、燃えるような演舞を披露したよさこい部。持ちが昂り誰もが見入ってしまうような演出を見せたダンス部。耳を傾けるだけで冒険に出ているような高揚感を与えてくれた吹奏楽部。どの団体も三年生に感謝の気持ちを伝えたいという思いが強く感じられた。

休憩後、軽音部の発表が後半開始のファンファーレとなり、再び会場が一つになった。その後、生徒会企画である各部活動からのビデオメッセージ、そして、会の目玉である三年生の教員企画のドラマが放映され、会場は一番の盛り上がりを見せエンディングを迎えた。笑いあり、感動ありの素晴らしい送別会となった。



カウンセリングルームより

オリンピッククに出場した選手は、技術面だけでなく、普段から食事(栄養面)や睡眠、休養の取り方、筋肉トレーニングやメンタルを強化することなど、そのスポーツとは直接関係のない、見えない部分のケアやトレーニングを欠かさないと報道されていました。目標達成のためには『ファウンデーション(基礎・土台)の強化』が重要と意識されているからだと思います。

高校生であるみなさんは夢の実現のため、目標達成のために、どのような『基礎・土台の強化』が必要でしょうか? 勉強時間を増やすだけでなく、何か意識をしていることはありますか?

自分自身のパフォーマンスを高め、よりよい状態を維持するためには、勉強方法を工夫することはもちろんのこと、それ以外の時間の使い方にも意識を向けてみましょう。例えば、睡眠時間をどのくらいとると勉強に集中できるか、リフレッシュのための休養をいつ入れると効果的か、どこまで出来たらおやつを食べると決める、などモチベーションをあげる方法は様々です。部活動に取り組むことで気持ちを切り替え、メンタルの強化をしている人もいます。

最近パフォーマンスが落ちてきているなあと感じる人は、目標達成のための『基礎・土台の強化』について考えてみませんか?

事務室だより

補助金・施設担当

皆様には、日頃から事務事業に對しまして多大なるご理解とご協力をいただいておりますことに心から感謝申し上げます。

授業料の納入、就学支援金、及び埼玉県父母負担軽減申請等では、大変お世話になり、平成29年度の就学支援金及び授業料軽減補助については、皆様のご協力により手続きが全て完了し、現在届け出のある授業料振替口座への振込処理をさせて頂きましたので確認をお願い致します。

なお、申請を忘れた、支援金及び補助金について確認したいという方はお気軽に事務室までご連絡ください。

新2年生・新3年生の方々については、平成30年度になりましたら引き続き「就学支援金・授業料軽減」についての書類を提出して頂くこととなります。例年通りですと第1回目の申請は、6〜7月に生徒を通して皆様に届けさせて頂きますので、何とぞよろしくお願い致します。お手元に資料が届かない場合は、お気軽に事務室までご連絡ください。

また、事務事業や施設関係でご不便をお掛けしている所もあるとは思いますが、全ての生徒が安心・安全、そして、勉強や部活動に打ち込める環境作りを順次整えていきたいと思っています。引き続きの、ご理解とご協力をお願い致します。